

1 「北九州市」の認知度向上

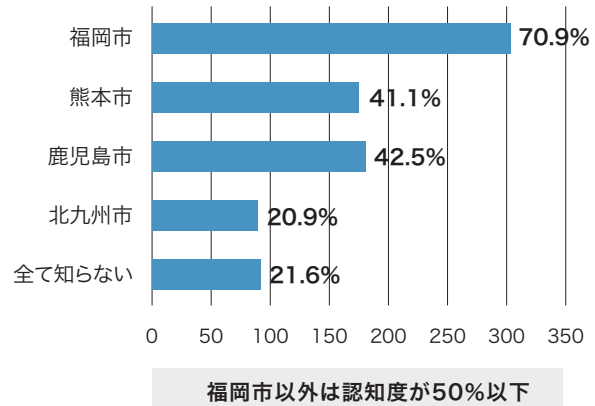
北九州市は、歴史・文化・自然・産業・食などバラエティ豊かな観光資源を有しているにも関わらず、認知度が不足しています。

2023(令和5)年に実施した海外の旅行博での来場者アンケートでは、「北九州市」の認知度が九州の主要都市に比べ低い結果となりました。訪問地として選ばれるためには、北九州市の「インバウンド観光都市」としての認知度向上が重要なカギとなります。

シンガポール旅行博来場者アンケート結果

(N=426)

Q. 以下の地名を知っていますか？



資料：シンガポール Japan Travel Fair来場者アンケート
(2023年9月29日～10月1日実施)

2 ニーズ・志向に合わせた観光コンテンツの発掘・磨き上げ

北九州市には、魅力ある観光コンテンツが数多くあるにも関わらず、外国人目線による発掘・磨き上げが不十分など、ポテンシャルが十分に活かされていません。

2023(令和5)年度の「ウェルカム北九州!キャンペーン」で実施した電子クーポン事業の外国人旅行者動向調査等によって、多くのデータを取得しました。北九州市のポテンシャルを開花させるためには、このようなデータを活用して、外国人のニーズ・志向に合わせた誘客対策を行っていくという視点が重要です。



3 市内に点在する観光スポットの回遊性向上

北九州市は、多くの観光スポットを有していますが、外国人旅行者が快適に周遊できる十分な環境とは言えません。2023(令和5)年に実施した北九州市在住の外国人による座談会においても、周遊の難しさを指摘する意見が出ています。

そのため、観光スポットをつなぐ移動手段の確保など、外国人旅行者が周遊したくなるような環境づくりが必要です。

在住外国人による座談会での周遊に関する意見

①北九州市の不便なところ、困ると感じたところ

- 公共交通機関の乗り方が分かりにくい(切符の買い方、バスの乗り方等)
- 観光地が点在しているのでそこを周遊することが難しい

②他地域と比較し、北九州市のここがいいと思う!ところとその理由

- 交通に関しては利便性が高いと感じた(新幹線があって空港もある)

4 九州の観光都市としてのプレゼンス向上

「北九州市の現状」でお示したとおり、2018(平成30)年に九州へ入国した外国人旅行者のうち、北九州市を訪れた外国人観光客は13.5%となっており、九州の一角を成す観光都市と呼べないのが現状です。

そのため、「点」の視点ではなく、周辺都市などと広域で連携した「面」での誘客に取り組み、九州の中で行ってみたい観光都市としてのプレゼンスを高めていく必要があります。



V

北九州市のポテンシャル

場

- 立地の優位性 ～交通の結節点～
- 北九州市全域に広がるリソース

文化

- 培われた歴史・文化の強み

人

- 人々の暮らしに根差した日常や食の魅力

つながり

- 海外とのコネクション
- 広域連携の推進

1 「場」のポテンシャル

●立地の優位性 ～交通の結節点～

九州・中国・四国地方で唯一24時間利用可能な北九州空港、本州と九州を結ぶ鉄道の玄関口である小倉駅(全ての新幹線が停車する駅)があり、九州で最も外国人旅行者が多い福岡市の博多駅から新幹線で約15分、特急で約40分であること、また、関西や四国などを結ぶフェリーが就航しているなど、北九州市は国内外とつながる公共交通の結節点であり、大きなポテンシャルを有しています。

●北九州市全域に広がるリソース

北九州市は歴史・文化・食・ショッピング・夜景などが楽しめる都市型観光の拠点であることはもとより、海と山に囲まれ、豊かな自然に恵まれるなど、体験・滞在型コンテンツが揃っており、外国人旅行者の多様なニーズに対応することができます。

<北九州市の主な観光資源(エリア別)> *北九州市観光振興プランより抜粋

- 小倉都心部(多様な魅力があふれる都市型観光拠点)
- 門司港レトロ・和布刈地区(九州最北端の港町リゾート)
- 平尾台(山を中心にした自然体験・滞在エリア)
- 若松北海岸(海を中心にした自然体験・滞在エリア)
- 皿倉・東田地区(北九州市のすべてを学び・楽しむ“まちごとミュージアム”)